

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2012	インターン番号	AP050	タイプ	長期
派遣国	ベトナム社会主義共和国		派遣都市	ホーチミン	
受入機関	Saigon Water Corporation (SAWACO)				
受入機関概要 (事業内容等)	ホーチミン市水道総公社 従業員数 約3,700人 給水人口 約650万人 給水量 約140万m ³ (データは2012年当時のものです。)				
派遣期間	2012年9月5日～2012年11月30日				
現在の所属先	株式会社 日立製作所		当時の所属先	同左	
現在の所属部署	インフラシステム社海外大規模プロジェクト統括本部		所在地	東京都	
区分	大企業		性別	男性	

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

弊社では水道インフラ事業の海外展開を推進していますが、海外では機器の供給だけでなくその運営にも参画する場合があります。日本国内における水道事業は各自治体が主体となって行っているため民間企業としてはその運営方法や事業の全体像を把握することは難しく、我々の知識は不足しています。水道事業体の中での研修が可能ということで、その課題や要点が掴めればと思い参加しました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

受入機関本社にて全体的な計画や運営に関する説明、また配水管やメータといった機器に関する技術的な解説を各部署の方から実施して頂き、必要な知識を得ました。その上で、各浄水場やダム、配水関連施設、料金徴収を行っている子会社を訪問し、その都度質疑をすることで、事業の理解を深めることが出来ました。またベトナム内他都市の水道公社視察を行うことで全体像の把握も行いました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

ベトナムの水道事業に関するヒト、モノ、カネという全体の流れを座学だけでなく体験として理解できたことは非常に大きかったと感じます。事業をする上で何に困っていて、どういう計画を立てているのかを現場の方々と会話出来たことで、海外へ展開する際の要点がわかった部分もあります。

個人としては、3ヶ月間という短い間でしたが新興国に住むということが如何なることかということをもっと学ぶことが出来ました。例えば大気汚染の具合や住環境、現地の生活水準、更には国が発展しているという高揚感、現地で生活してみなければわからないことだと思います。

また、長期滞在をすることで、外からの視点で日本を見るようになったことや、世界情勢等が身近なものであるという認識をするようになったことは変化として挙げられると思います。これは実習から帰国した後から感じることであり、視野が少し広がったという印象です。

インターンシップ風景



水道メータ検査場訪問の様子



現地技術者との議論の様子

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

インターンシップ後は、実習で得た水道事業運営の全体像や問題点を元に、海外展開に向けた新規事業の提案やソリューションシステムの説明を東南アジアを中心に行っていました。いくつかの案件は現在も進行中ですが、私個人としては部署移動となり、現在はイラク共和国バスラ県の浄水場建設プロジェクトに従事しております。

本案件は、経済産業省が展開するインフラ輸出の取り組みと連携した事業活動の一環であり、フランス、エジプトの企業と共同企業体を構成し2014年2月から工事を開始しているものです。イラク南部の中心地である同国第二の都市バスラでは、既存の浄水場の給水能力では供給が追いついておらず、水インフラの整備が急務な状況です。こうしたイラクの浄水供給状況の改善を図ることを目的として、塩分濃度の高い河川水を原水とした淡水化設備の建設を行っています。

私はその電気部門の主任として参画していますが、実習時に学んだ水道技術の知識や海外生活の経験をフル活用して何とか対応している状況です。日々の業務では、納入先の自治体だけでなく、パートナー企業をはじめ海外の多くの関係先とのコミュニケーションが必要となります。私個人が接しているだけでも10カ国程です。それぞれに宗教や生活習慣、性格があり、相手の状況を思いながら仕事を進めています。インターンシップ時に学んだ異文化コミュニケーションの知識やベトナムでのその実践経験は、非常に有効なものとなっています。Trial & Errorで学んでいることも多くありますが、海外での実習経験という基礎があったからこそ気づく部分も多くあるものと思います。

当時の実習から3年経った今にして思えば、渡航前研修時に教えて頂き、深く考えた様々なこと、例えばグローバル化とインターナショナル化の違いは何か、グローバル人材に必要な資質とは何か、といったことが今の私を形成する上では重要であったのだと感じます。日々の業務を行っているだけではなかなか気づかないことを、実習という時間を使って学べたことは貴重であり、そこで一度考えたことは現在の業務にも少なからず活きていると感じます。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

本インターンシップに何を求めるか、どう活かすかは企業や個人の考え方次第で良いのだと思います。同じ実習生として海外志向の強い若手の方々が数多く参加していますので、そうしたインターン生との接触は個人としても刺激になります。新興国等での滞在は不安もあるかと思いますが、実習にあたっては、METI*1、JETRO*2、HIDA*3の方々の支援に加え、場所によっては現地に協力機関があり、サポート体制は充分整っていますので安心して参加出来ると思います。

皆様のご健闘をお祈り致します。

(*1 METI: 経済産業省 *2 JETRO:独立行政法人日本貿易振興機構 *3 HIDA:一般財団法人海外産業人材育成協会)

現在の活躍の様子



インドネシアでの現地調査の様子